

平成27年度第2回 技術室主催
東京大学医科学研究所テクニカルセミナー

タンパク質・ペプチド分析の基礎 ～カラム選択から分析例まで～

日時: 2015年6月30日(火) 16:00 ~ 17:15

場所: 医科学研究所 2号館2階 小講義室

演者: 昭和電工(株) 分離精製グループ 関 健太郎

高速液体クロマトグラフィ(HPLC)を使ってタンパク質やペプチドを分析する際、その対象物質に応じて様々な分離モードの中から最適なカラムを選択する必要があります。

本セミナーでは、タンパク質やペプチド分析におけるカラム選択方法について、決め手となる原理から分析例までを説明いたします。

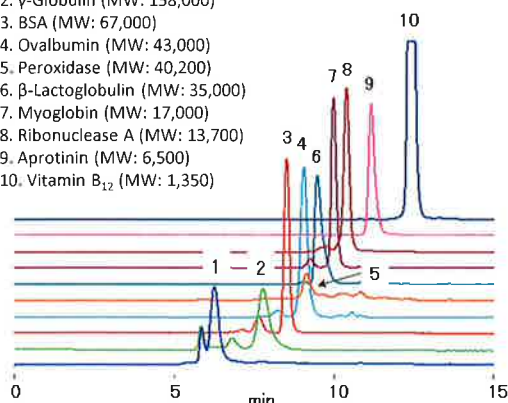
これからHPLCを使ってタンパク質・ペプチドの分析を検討されている方や、検討し始めたばかりの方にわかりやすいように説明いたします。

各種HPLCカラム

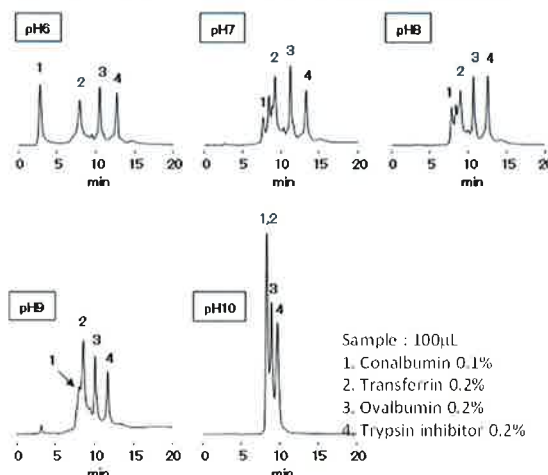


分子量の違いを利用したタンパク質分析例 分離モード: サイズ排除 カラム: Shodex KW403-4F

1. Thyroglobulin (MW: 669,000)
2. γ -Globulin (MW: 158,000)
3. BSA (MW: 67,000)
4. Ovalbumin (MW: 43,000)
5. Peroxidase (MW: 40,200)
6. β -Lactoglobulin (MW: 35,000)
7. Myoglobin (MW: 17,000)
8. Ribonuclease A (MW: 13,700)
9. Aprotinin (MW: 6,500)
10. Vitamin B₁₂ (MW: 1,350)



pHの違いによるタンパク質分離の比較 分離モード: イオン交換 カラム: Shodex DEAE-825



Sample : 100 μ L
1. Conalbumin 0.1%
2. Transferrin 0.2%
3. Ovalbumin 0.2%
4. Trypsin inhibitor 0.2%

★事前の申し込みは不要ですので、直接会場にお越しください★

昭和電工株式会社 特殊化学品部 分離精製グループ
本社: 〒105-8518 東京都港区芝大門1-13-9 Tel: 03-6402-5066
URL: <http://www.shodex.com/>

Shodex[®]

